

教科名	家庭科	校 種	高等学校
-----	-----	-----	------

科 目 の 配 当				
学年	科目名	必・選	単位	授業展開など、授業の形態
1 年				
2 年	家庭基礎	必	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施
3 年	生活文化	選	2	講義、実験、実習によって展開 実習は教員1名、助手1名で実施

科目名（教科名）	家庭基礎（家庭）				
担当教員	池上 弘枝				
学年	2	単位数	2	必修・選択・展開	必修

■ 授 業 の 目 的

1. 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を学ぶ。
2. 学習した知識や技術を活用し、家庭や地域の生活課題を主体的に解決する態度を学ぶ。
3. 家族や社会との共生を目指し、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を学ぶ。

■ 授 業 計 画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	家族・社会との共生 第1章 自分らしい人生をつくる		・生涯発達の視点、青年期の課題、目標を持って生きる ・人生をつくる ・家族・家庭を見つめる、これからの家庭生活と社会 ・高齢期を理解する、高齢者の心身の特徴、これからの高齢社会 ・私たちの生活と福祉、共に生きる、社会保障の考え方 ・食生活について考える、食事と栄養・食品 ・これからの食生活、生涯の健康を見通した食事計画
	第2章 子どもと共に育つ 第3章 高齢社会を生きる 第4章 共に生き、共に支える生活の自立 第5章 食生活をつくる		
2 学 期	第6章 衣生活をつくる 家族・社会との共生 第2章 子どもと共に育つ生活の自立 第5章 食生活をつくる		・被服の役割を考える、被服を入手する、被服を管理する ・これからの衣生活 ・子どもとの触れ合いから学ぶ、これからの保育環境 ・食生活の安全と衛生、調理の基礎、調理と理論 ・住生活について考える、住生活の計画と選択 ・これからの住生活 ・職業生活を設計する、計画的に使う、消費行動と意思決定 ・国民経済・国際経済と家庭の経済生活、現代の消費社会 ・これからの消費生活と環境 ・生涯を見通す ※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。
3 学 期	第7章 住生活をつくる 家族・社会との共生 第8章 経済生活を営む 生活の創造 第9章 生活を設計する		
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	
	【思考・判断・表現】	家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	
	【技能】	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割 合：定期試験70%、平常点30%として学期の成績を算出する。		
教科書・副教材等	●教科書： 家庭基礎（東京書籍） ●問題集： なし ●副教材： 家庭科55資料集（教育図書）		

科目名（教科名）	生活文化（家庭）				
担当教員	平尾 三和子				
学年	3	単位数	2	必修・選択・展開	選択

■ 授業の目的

1. 日常生活のマナーや文化を知り、実践する態度を学ぶ。
2. 被服の基本型と文化、着装などに関する知識と技術を学ぶ。
3. 服飾文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を学ぶ。
4. 食生活の変遷と文化、日本と世界の食文化などに関する知識と技術を学ぶ。
5. 食文化の伝承と創造に寄与する能力と態度を学ぶ。

■ 授業計画

学 期	授 業 の 項 目		内 容
1 学 期	生活とマナー・文化		・ 日常生活のマナーと文化（茶道の基礎）
	服飾文化の伝承と創造		・ 被服製作の基礎、着物の構成と名称 ・ ゆかたの製作（裁断、縫製）、ゆかたの着装
2 学 期 （3 学 期）	食生活の充実と向上		・ 生涯の健康を見通した食事計画 食事バランスガイド
	食文化の伝承と創造		・ 対象別の献立と調理 幼児や高齢者の食事
			・ 様式別の献立と調理 和食の献立、中国風献立、洋風献立など
			・ 世界の料理の特徴と文化、日本の料理の特徴と文化
			・ 調理の基礎 集団調理（安全と衛生） 調理の目的、種類と基本操作
	手芸品の伝承と創造		・ 各種手芸に関する知識 手芸の種類、特徴及び変遷、技法 手芸品の製作
	生活の課題と実践		※生徒の実態に応じて内容、進度が変更されることがある。
評 価 の 観 点	【関心・意欲・態度】	生活の技術について関心をもち、その充実向上を目指して主体的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	
	【思考・判断・表現】	家庭や地域の生活について課題を見だし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	
	【技能】	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	
	【知識・理解】	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
評価の方法と割合	●評価方法：定期試験（1学期2回各25分、2学期1回）と平常点（提出物・実習・実験態度など）で各学期の成績を算出する。 ●割合：定期試験50%、平常点50%として各学期の成績を算出する。		
教科書・副教材等	●教科書： なし ●問題集： なし ●副教材： 生活ハンドブック（第一学習社）		